

なぜ、恥骨間隔(恥骨の開き具合)を測定するのか？

恥骨間隔を定期的に測定すれば：

- メスの性成熟の程度と、いつ頃産卵を始めるか知ることができます。
- 鶏群の光線刺激を正確なタイミング/週齢で行うことができます。



恥骨間隔を測定する手順

トリの取り扱い

トリは、適切な訓練を受けた人によって、優しく適正な方法で取り扱われなければなりません。トリのウエルフェアは常に何よりも重要です。

機器

必要なし—これは体の一部である指を使って行う測定方法です。

理想的には、恥骨間隔は毎週同じ人が測定すべきです。

注—「指」という用語を使っていますが、人の手の大きさと比例しているため、人によって太さは異なります。

方法

恥骨間隔は15-16週齢から産卵開始まで定期的に測定されるべきです。

恥骨間隔は、理想的には毎回鶏舎を「歩く」たびに、測定されるべきですが、最低、週に一度は測定されるべきです。

- Step 1** ゆっくり気をつけてメスの中を歩き、無作為にトリを選びます。
- Step 2** 両脚の上部を持ってトリを抱きかかえ、頭を下に腹を外に向けます。
- Step 3** トリの両恥骨の間に、指を優しく押し当てます。
- Step 4** 両恥骨の間隙に何本の指がゆったり入るか記録します。
- Step 5** 鶏舎の床の上にトリを戻します。
- Step 6** 鶏舎の中をゆっくりと歩きながら、この作業を繰り返し、その都度、何本の指が案に入るか記録します。
- Step 7** 毎回、最低20-30羽を調べます。
- Step 8** 恥骨間隔の各区分; 指0本、指1本、指2本、指3本に入るトリの割合を計算します。



Step 3

計算例と初産 10日前の結果

サンプル羽数=30

恥骨間隔指2本のトリの羽数= 24

恥骨間隔指2本のトリの割合

$$\frac{\text{恥骨間隔指2本のトリの羽数}}{\text{総サンプル羽数}} \times 100$$

$$= \frac{24}{30} \times 100 = 80\%$$

恥骨間の指の数	羽数	%
0	1	3
1	2	7
2	24	80
3	3	10

結果の見方

週齢が進むことによる恥骨間隔の変化

日齢	恥骨間隔	恥骨間のおおよそ の距離
84-91日齢	閉鎖	-
119日齢	指1本	1.9-2.5 cm (0.75 in-1 in)
産卵開始21日前	指1本半	
産卵開始10日前	指2-2本半	3.8-4.2 cm (1.5 in-1.7 in)
産卵開始	指3本	5-6 cm (2-2.5 in)

いかなる日齢でも、鶏群の少なくとも80-85%は同じレベルの恥骨の開き具合になっている必要があります。初産の10日前には、鶏群の80-85%は指2本から指2½本の恥骨間隔になっています。もし下記の日齢で、鶏群の80-85%以下しか同じ恥骨間隔になっていなかったり、期待した恥骨間隔になっていなかったりすれば、その時は調査が必要です。

指1本の恥骨間隔。119～147日齢のトリ。



指2本の恥骨間隔。初産10日前のトリ。



指3本の恥骨間隔。産卵開始のトリ。



上の図で定規を使っているのは、恥骨間隔の広さを図示するためです。本来の測り方と判断は、実際に定規で幅を測るよりも、指の入り方を基にすべきです。

恥骨の開き具合で起こりうる事例と解決策

事例	解決策
同日齢のトリの間で、恥骨の開き具合にバラツキがある(鶏群の70%以下のトリしか同じ恥骨の開き方をしていない)。	少なくとも80-85%のトリが同じ恥骨の開き具合になるか、早くても154日齢になるまで光線刺激を遅らせず。そうすることで、鶏群が自然と同じレベルの恥骨間隔になるまで、より多くの時間がとれます。鶏群の揃いを良くするため、育成期間中のグレーディング方法を再検討します。CV10%以下の鶏群は恥骨の開き具合のバラツキが少ないでしょう。
日齢に応じた恥骨の開き具合より狭い(トリの日齢に応じて予測される成熟より遅れている)。	日齢に応じた体重をチェックします;もし体重が推奨体重より軽ければ、産卵開始(5%産卵)時まで給餌量を調整し、光線刺激の前にトリを徐々に標準体重に戻します。 トリが日齢に応じた適正な恥骨間隔になるまで光線刺激を遅らせず。
日齢に応じた恥骨の開き具合より広い(トリの日齢に応じて予測される成熟より進んでいる)。	推奨通りにトリを刺激します;この場合、持続性が影響を受けるかもしれません。体重をチェックして、次群では体重を目標体重に近づけるようにコントロールします。育成期の間、鶏舎が十分遮光されている(光漏れが無い)かチェックします